

## 瀬戸内播州赤穂から「北前船がもたらしたもの」第3号（全国版）

赤穂市教育委員会提出 5月17日

今回は北前船が運んだ算額文化を加速させた播州赤穂発のご当地自慢です。

算額文化とは円周率等の問題や答えを絵馬（写真）にして神社に奉納する日本独特の文化で重要文化財になった算額絵馬もあります。和算と算額文化は伊能忠敬の日本地図と共に



に世界記憶遺産にも申請出来る内容だと言う梶川先生は、東大時代から北前船寄港地を訪ね歩く数学家で、多くの論文を残されています。3月坂越に来られ「北前船・和算などをめぐって」の論文の話や、日本で初めて数学的な方法で円周率を発表した浅野家家臣の村松茂清のレクチャーがありました。茂清の養子の秀直とその子高直が討ち入りに参加した時は茂清が亡くなって7年が過ぎ、著書「算組1663年（写真）」は円周率を小数点以下7桁までの値で、日本最初の円周率の正しい値でした。その後、円周率の桁は増加し鎖国下、正確な円周率が世界より200年早く発見され、全国で和算ブームが加速しました。坂越でも測量した伊能忠敬の日本地図はシーボルトも欲しがれる程の精密なもので、円周率から円理へと研究競争とそれを使った忠敬の努力から生まれたのです。和算は算額文化になって日本海側の各地に北前船を通じて伝播し、算額絵馬を神社に奉納する風習が広まりました。村松茂清の正確な円周率発見から和算ブームが加速し、算額文化



となって北前船 と関係していた事は、もうひとつの赤穂の知られざるご当地自慢です。赤穂でも和算はさかんで大津八幡神社の算額絵馬は赤穂市指定の文化財になっています。5月坂越に再びこられ「梶川与惣兵の子孫で私は敵側だ」と、言われたのでそれは梶川殿が止めていなかったら忠臣蔵の話は生まれなかったのだと忠臣蔵の話でも盛り上がり先生は坂越や赤穂と縁が深い方だと思いました。

(レクチャー梶川雄二先生 矢竹考司)

以下は梶川先生の論文の抜粋で、全文は「北前船・和算などをめぐって」の検索で見れます

北前船が山陰・北陸・東北日本海側を經由して当時「この5月は江戸にもない」との表現でも有名な北海道南西部の町江差にまで行ったことはよく知られている。当時北海道では米が育たず米を堂島から持ち込み、帰りは江差のにしん、昆布を運んでいたようである。現在も大阪では、アイヌの娘の絵で有名な「えびすめ」などの昆布のお店が多々存在し、京都のにしんそばも有名である。私は逆にそばが持ち込まれた江差で、にしんそばを横山家で賞味したことが何回かあるのである。文政13年版千葉雄七胤秀の算法新書も有名である。有名な江差の民謡「江差追分け」はこのような北前船による人的交流から生まれたようで、座頭の人がもたらしたと言われている。また、和算もこの交流をもとにしてもたらされたようで、江差の横山家には「算法新書」が蔵に眠っており、もう一軒の古い家、にしん御殿で知られる関川家には「継子立て(ままこだて)」に関する興味ある書物がいくつか残存している。また、幕末の「函館戦争」(1868-1869年)の折りに軍艦船開揚丸が江差沖で座礁しており、海中から関流の和算の本が多くあがってきている。断片しかなかったものを襖に張り付けて乾かす根気のいる作業で復元したものである。まさに江差は当時(江戸末期、明治初頭)としては現在の札幌をしのいでいた。以下略

論文提供 梶川雄二 (数学研究家 神戸市在住)  
発行者 門田守弘 (坂越町並みを創る会会長)